様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ９ 月 ２３ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０３９２

研究課題名（和文）日本伝存文献を用いた『全唐文』補訂の可能性についての研究

研究課題名（英文）A study of riwise and enlarge "Quan-Tangwen " with preserve documents in Japan

研究代表者
道坂　昭廣（MICHISAKA, AKIHIRO）

京都大学・人間・環境学研究科（研究院）・教授

研究者番号：２０２０９７９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、日本に伝存する唐代の文学作品を収集し、『全唐文』を補訂しようとする。具体的にはに陳尚君輯『全唐文補編』を底本として校勘を行った。また日本に伝存する写本の重要性を紹介する為に、特に『王勃集』の佚文を取り上げた。鈔写時期を検討するとともに、その作品には、従来の王勃文学の見直しを迫るものがあることを論証した。『王勃集』に象徴されるように、日本に伝存する写本が、唐代の文学作品の資料として貴重であることを具体的に紹介した。

研究成果の概要（英文）：　This study was to collect the literary works of the Tang Dynasty in Japan, trying to revised and enlarged “ Quan Tangwen(全唐文)”.I used Chen Shaojun "Quan Tangwen bubian（全唐文補編）" as copytext. Also in order to introduce the importance of the manuscripts in Japan, I particularly took up Wang Bo(王勃)lost work. In addition to considering the scribal time, in its works, I demonstrated that there is something approaching a review of the traditional Wang Bo of literature. As symbolized by "Wang Bo ji" lost works, I introduced that manuscripts in Japan are valuable as a document of the literary works of the Tang Dynasty.

研究分野：中国文学

キーワード：中国古典文学　写本　王勃　初唐文学　駢文　石印印刷

１．研究開始当初の背景

申請者は、日本に伝わる『王勃集』の佚文を調査する過程で、国内外を問わず、日本に伝存する古写本が、中国文学研究者の中で、資料としてあまり正確に認識されていないことを痛感した。その原因は、文集編纂当初の文字を伝えている可能性を秘めているにもかかわらず、書誌的な情報といった写本そのものに対する基本的な調査と報告が不十分であること、また保存されている作品そのものに対する検討が十分でない為に、テキストとしての重要性が具体的に知られていないことにあると思われた。

もちろん、『文選』や白居易の文集といった特定の作品集の写本については研究・紹介が進んでいるが、経部の写本に比べ、集部、即ち文集の写本の多くは、充分な研究が行われていない。特に奈良朝から平安初期に渡来或いは筆写された文集やそこに録されている唐代の散文については、その存在こそ知られているものの、ややもすると、そこに加えられた標点や送りがなに注目した国語学資料として関心や研究と、字体そのものに着目した、書道史、或いは字体の変遷を示す資料の一つとして用いられることが多く、中国古典文学の資料としての活用や研究は不十分であり、その点から考えると、未だ正当な評価と紹介が為されていると考えられない状況にあった。

南京大学に域外漢籍研究所が設置されるなど、中国や台湾でも日本を含む中国以外の地域に伝存する漢籍に対する関心が高まってきている。しかし、これら古写本に対する研究や報告は、これまでの研究の蓄積や調査の便などを考えると、日本の研究者が主体的に行うことが最も合理的であり、更に言えば責務であると思われた。

２．研究の目的

日本に写本の形で伝わる中国古典文学作品について、より正確なテキストの作成し、研究者の便を図る。次にその作業を通して、日本に伝存する写本の学術的価値を紹介することを大きな目的とした。

具体的には陳尚君輯『全唐文補編』をモデルに、それを補完する資料の作成を目指した。これは日本に伝存する写本の重要性が、国内ばかりでなく、国外の中国古典文学研究者に広く認識され、また研究資料として利用されることを目的とする作業である。

まず、日本に伝存する中国唐代の文学者の文集の重要性が、国内外の研究者に広く認識されることを目的として、『王勃集』の佚文を取り上げることとした。その文字や巻物としての書式などさまざまな観点から、書写時期を紹介し、更に中国に伝来する作品との校勘や佚文の紹介を通して、従来の解釈を訂正し、王勃という文学者とその文学が見直されねばならないことを主張する為である。これらの作業によって、日本に伝わる中国古典文学の古写本のテキストとして重要性を実証する。更にこれらの作業を拡大し論証を深化させることを通して、日本伝存古写本が研究資料としての有用であることを、広く国内外の中国文学研究者に報告することを目指した。

３．研究の方法

日本に写本の形で伝存する中国古典文学、特に唐代の文学者の文集や作品について、その伝来や所在といった基本的情報を確認する。佚文についてはその紹介、中国伝わる作品については校勘を行うとともに、それらが唐代の文学作品としてもつ意義について考察を行う。次に、そのテキストとしての価値の発見、即ち何時、どのような経緯で発見されたのか。またどのような方法で、誰により、どのように紹介されたのかについても確認作業を行う。

文学作品としての考察においては、従来の研究は韻文に偏りがちであったと思われるので、本課題においては特に散文作品の検討に重点をおいた。

具体的な作業として、日本文学研究者や陳尚君氏などにより既に翻字されている写本中の作品については、再度校勘を行い、より正確なテキストの作成を行うとともに、陳尚君氏の『全唐文補編』が作者別になっていることから、むしろ写本としての本来の形を復元し、その写本としての状況を紹介することが重要と考え、作業を行うこととした。

日本に伝存する中国唐代の文学作品集の写本の重要性を示す象徴的存在として『王勃集』に注目した。『王勃集』については、羅振玉と陳尚君氏、更に本科研研究期間中に日中文化交流史研究会編『正倉院本王勃詩序訳注』が出版されるなど翻字されたものがあるが、それらの文字を確認しつつ、さらに必要部分について注解を行った。

特に陳尚君氏の翻字については、『文館詞林』など他の写本作品についても校勘を行った。ただこの作業は本計画内にすべてを完成させることができず、現在も継続中であり、順次発表してゆく予定である。

４．研究成果

上記の問題意識に基づく作業と考察によって得られた知見は、幾つかの論文にまとめた。またその他に、学会発表や講演の場において報告する機会を得た。これらによって、日本に伝存する唐代文学の文集の写本がもつ重要性について国内外の学界に紹介するという、本研究の主要な目的は、ある程度達成できたと考える。

具体的成果としては、『王勃集』を取り上げたものに限られるが、中国・台湾・香港など、特に国外の学会や講演会での報告、論文発表などの方法を通して、これら古写本の重要性を紹介することができた。例えば中国で、咸暁婷「従正倉院写本看滕王閣序」(『文学

遺産』2012,12)といった論文が発表されたが、これは日本に伝存する古写本の重要性が国外でも認識されてきたことを示すものである。この咸氏論文において本研究の成果が紹介されていること、更に本科研の成果の一つである「≪滕王閣序≫“勃三尺微命、一介書生”新解―以正倉院蔵王勃詩序為線索」が中国学術文献網絡出版総庫（CNKI）において2015年3月末時点で下載頻度（ダウンロード件数）が190余回に達していることは、本科研を計画した当初の目的が達成されつつあることを端的に示すものである。

また本研究のもう一つの目的である日本に伝存する文集がテキストとして如何に重要であるかという問題については、日本にのみ伝わる『王勃集』が編纂直後のテキストの形を伝えていることを論証し得たこと（論文「日本に傳わる『王勃集』殘卷についてーその書寫の形式と「華」字欽筆が意味すること」。投稿は2014年1月であるが、掲載は研究期間終了後の15年7月『東方學』130輯）を、成果として報告することができる。その他、これら佚文には、王勃の生涯や王勃文学について、これまでの研究を見直す必要がある作品が含まれていることを報告した。このような報告は、日本に伝存する古写本の重要性を象徴する事実として紹介するという点で貢献できたと考えている。

次に、本科研の課題を進めて行く中で発展、派生してきた問題について述べる。

本科研では、散文に焦点を絞って調査したことにより、中国古典文を用いて書かれた作品として奈良朝から平安初期の所謂漢文作品についてもその重要性に気付くことができた。韻文に比べ散文は、従来看過されてきたところがある。しかし、中国古典文を用いた作品として中国で創作されたものと同列におくという視座を得た。このことは、『全唐文』や陳氏『補編』にも一部採録されているが、同時代作品群として唐代文学の資料としてまた研究資料として提示される必要があると考える。特に同時期に完成したとされる駢文の特色や広がりを解明するうえで、これら日本の散文作品は重要でありながら、未だ充分な考察が加えられていない資料である。このような認識を得て、特に台湾・韓国の研究者にその初歩的な考え述べ、討論することができた。

『王勃集』をはじめとする、これら日本に伝存する古写本の発見と紹介は、これまで主に楊守敬・羅振玉らの研究によるとされてきた。彼らの発見と紹介を促したのは、一つは既に指摘されているように、江戸時期以来の書誌学研究の伝統を引き継いだ日本の学者の協力であった。しかし、本科研の調査により、彼らとともに、明治初期において町田久成をリーダーとする博物局や、得能良介が主導した印刷局の調査活動と影印事業が、実は楊・羅二氏の発見と研究に大きな貢献を果たしていたことを明らかにできた。特にこれまで忘れられてきた、少なくとも中国学においては全く閑却されてきた印刷局による石版で古写本を複製刊行した「朝陽閣集古」を紹介することが出来た。更にその次の世代となる内藤湖南等京都の学者を中心とする羅振玉との学術交流も羅振玉の日本に伝存する古写本研究に大きな影響を与えたことが解った。

これらの事実は、これまで充分な調査がなされていなかった問題であり、本科研においても、当初の計画ではあまり比重をおいていなかった問題であったが、中国文学研究とともに、明治から昭和初期の学術史・文化史とも関わる重要な問題を含んでおり、今後より詳細な調査を行う必要があると、申請者は考えるに至った。

最初に述べたように、日本に伝存する古写本が中国古典文学の資料として有する意義の一部分については、本科研期間中に具体的に紹介し得たと思われる。特に国外の研究者がその重要性を認識する上で、一定の貢献を果たすことができた。しかし、継続して進めなければならない作業や、上記のように新たな課題も浮かびあがってきた。本計画で得られた成果を拡大深化させるとともに、国内外の研究者と連携し、これらの知見が学界の共通認識となるように、今後引き続き発信する必要がある。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

①道坂昭廣「京都大學附屬圖書館藏≪羅振玉藏書目錄≫紹介」査読有『國際漢學研究通訊』第十期 北京大學出版社 2015,3　pp.185-199

②道坂昭廣「日本傳存『王勃集』殘卷景印覺書」査読有『敦煌寫本研究』9 號 2015,3 pp.147-162

③道坂昭廣「正倉院蔵『王勃詩序』中の「秋日登洪府滕王閣餞別序」について」査読有『敦煌寫本研究年報』第7號 2013,3 pp.149-165

④道坂昭廣「王勃「滕王閣序」中の「勃三尺微命、一介書生」句の解釈について」査読有『歴史文化社会論講座紀要（京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論講座）』第10号 2013,2 pp.1-10

⑤道坂昭廣「≪滕王閣序≫“勃三尺微命、一介書生”新解―以正倉院蔵王勃詩序為線索」査読有『古典文學知識』2012年第6期 2012,12 pp.53-62

⑥道坂昭廣「論傳橘逸勢筆“詩序切”與上野本≪王勃集≫的關係」査読有『域外漢籍研究集刊』第八輯 2012,5pp.263-278

〔学会発表〕（計７件）

①道坂昭廣「駢文という文体の日本への伝播について」『漢字世界としての東アジア』2015,3,11　韓国ソウル高麗大学

②道坂昭廣「日本關西地區漢學管窺」2014,12,16『走入國際漢學與比較文學「交流圈」内』臺北金萱會會外會<臺北月涵堂會議廳>　臺湾清華大学等
③道坂昭廣「日本漢文學中初唐文學的影響的初步探討」2014,12,17『翻譯與傳播』臺北金萱會漢學與物質文化國際學學沙龍<臺北月涵堂會議廳>
④道坂昭廣「京都大學附属圖書館藏《羅氏藏書目錄》紹介」2014,9,2-4『国際漢学研究之回顧与前瞻一我的漢学之路』<北京大学>
⑤道坂昭廣「王勃南行考一以日本傳存王勃集佚文為線索」2013,12,9-10『第二届饒宗頤與華學暨香港大學饒宗頤學術館成立十周年慶典國際學術研討會』<香港大学>
⑥道坂昭廣「關於盧照隣弟：盧照己的墓誌」2012,10,22『史文磚與墓誌』漢學與物質文化國際學術沙龍<臺湾臺北>
⑦道坂昭廣「簡単紹介一下京都大学的中国学」2012,10,21『聴慕尼黒和京都来客談漢学』国際「漢學與物質文化」研究聯盟等主催）<臺北：市長官邸藝文沙龍>

〔図書〕（計 1 件）
①東方學研究論集刊行會編・道坂昭廣他京都臨川書店『高田時雄教授退職記念東方學研究論集［日英文分册］』（「日・中における正倉院藏「王勃詩序」の“發見”について」2014,6

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
道坂　昭廣（MICHISAKA Akihiro）
京都大学・大学院人間・環境学研究科・
教授
研究者番号：20209795

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：